

新潟国際情報大学
経営情報学部 / 情報文化学部

2020

管理会計論 / 管理会計

予習ノート ～後編～

山下功 [担当・著]

学籍番号 _____ 氏名 _____



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

MA-Y2-20201117

目次

●授業の概要

第1講	管理会計とは.....	前編 3
-----	-------------	------

●業績評価会計

第2講	標準原価計算と原価統制(1).....	前編 4
第3講	標準原価計算と原価統制(2).....	前編 6
第4講	直接原価計算とCVP分析(1).....	前編 8
第5講	直接原価計算とCVP分析(2).....	前編 10
第6講	予算管理と短期利益計画.....	前編 12
第7講	事業部制と責任会計.....	前編 14
第8講	前半のまとめ.....	未収録

●意思決定会計

第9講	個別計画意思決定(1).....	後編 3
第10講	個別計画意思決定(2).....	後編 4
第11講	設備投資意思決定(1).....	後編 5
第12講	設備投資意思決定(2).....	後編 7

●まとめ

第13講	経営情報システムと会計.....	後編 9
第14講	後半のまとめ.....	未収録
第15講	管理会計の実務.....	未収録
空欄部分	の解答.....	前編 16, 後編 12

第9講 個別計画意思決定(1)

9.1 特殊原価の概要

[1] _____ は、経営管理とくに計画設定における代替案選択のさいに利用される数種の原価概念である。

経営意思決定に必要な原価情報の提供のための原価計算を

[2] _____ または [3] _____ という。

9.2 特殊原価の種類 (11種類)

[4] _____ 原価、 [5] _____ 原価、 [6] _____ 原価、

[7] _____ 原価、 [8] _____ 原価、

[9] _____ 原価、 [10] _____ 原価、

[11] _____ 原価、 [12] _____ 原価、

[13] _____ 原価、 [14] _____ 原価

9.3 埋没原価とリアル・オプション →教科書を参照

9.4 特殊原価の事例 →教科書を参照

9.5 個別計画意思決定の欠点

1. ここで用いられる収益や原価は [15] _____ である。
2. 個別計画意思決定問題は、 [16] _____ の原価概念の枠組みで考えた結果である。
3. 個別計画意思決定問題において、問題文で述べられていない事柄については、どの代替案を採用しても [17] _____ であることが前提となっている。

9.6 例題 1: 差額原価 →教科書を参照

9.7~9.8 例題 2: 特別注文の諾否の決定 →教科書を参照

第10講 個別計画意思決定(2)

10.1 機会原価の概要

支出原価: 犠牲にされる経済的資源を、それらの取得のために支払った^[1] _____ 額によって測定した原価。

機会原価: 犠牲にされる経済的資源を、他の代替的用途に振り向けたならば得られるはずの^[2] _____ の利益額、すなわち最大の^[3] _____ 額で測定した原価。^[4] _____ 原価の一種。

^[5] _____ 用の原価であり、実際の現金支出と^[6] _____

するものではない。

10.2 機会原価の考え方 →教科書を参照

10.3 機会原価と機会損失

機会損失とは、機会原価と、ある代替案を選択した場合の利益額との^[7] _____ のことである。

10.4 機会原価と機会損失の事例 →教科書を参照

10.5 例題3: 加工か販売か →教科書を参照

10.6 例題3の追加問題 →教科書を参照

10.7 例題4: 自製か購入か(内製か外注か) →教科書を参照

10.8 例題5: 製品の改廃 →教科書を参照

第11講 設備投資意思決定(1)

11.1 貨幣の時間価値

長期的な視点に立てば、貨幣は時間の経過によって価値が^[1]_____する。

なお、貨幣の時間価値計算の注意点として、物価変動ではなく、^[2]_____によって価値を測定することが挙げられる。

11.2 将来価値と現在価値 →教科書を参照

11.3 設備投資意思決定

設備投資の効果は長期間に及ぶため、貨幣の^[3]_____を考慮する必要がある。

そのため、年度ごとに^[4]_____を計算し、一定の^[5]_____で割ることによって現在の価値に変換する。この変換のことを^[6]_____といい、ここで用いる年利率のことを^[7]_____という。

この方法を使用する評価方法を総称して

^[8]_____ (^[9]_____法)といい、

その代表的なものとして

^[10]_____ (^[11]_____)と

^[12]_____ (^[13]_____)がある。

また、この方法では、割引率として

^[14]_____ (^[15]_____)が多

く用いられる。

11.4 正味現在価値法 (NPV: net present value)

正味現在価値法では、^[16]_____の純キャッシュ・フローを
現在価値に割り引く^[17]_____を行い(^[18]_____
額も現金支出として計算する)、各年度の割引純キャッシュ・フローを合
計することによって、^[19]_____を求める。
正味現在価値が^[20]_____であれば当該投資案件を採択し、^[21]_____
または^[22]_____であれば棄却する。

なお、以下の仮定を設けて計算することが多い。

- 現在は、第1年度の^[23]_____である。この時点で^[24]_____
による支出をする。
- 純キャッシュ・フローは、毎年度の^[25]_____に発生する。

11.5 例題 1: 加重平均資本コスト率 (WACC) →教科書を参照

11.6 例題 2: 正味現在価値法 (NPV) →教科書を参照

第12講 設備投資意思決定(2)

12.1 内部利益率法 (IRR: internal rate of return)

内部利益率とは、当初の設備投資額を^[1]_____、それを除いた純キャッシュフローを^[2]_____と見なしたときの^[3]_____である。

つまり、NPV が^[4]_____になるときの割引率である。

内部利益率が^[5]_____を超えていれば当該投資案件を採択し、それ以下であれば棄却する。

なお、目標利率として^[6]_____が多く用いられる。

内部利益率における注意点を以下に挙げる。

- 純キャッシュ・フロー額が年度によって^[7]_____する場合は、年金現価表を使うことができない。
- 期間を n とすると、内部利益率は n 次方程式の解のうちの 1 つである。したがって、^[8]_____の内部利益率が算出される場合がある。

12.2 回収期間法 (PP: payback period)

回収期間法は、日本で最も^[9]_____使われている評価方法。

単純な回収期間法は、貨幣の^[10]_____と

^[11]_____のキャッシュ・フローを考慮していない点では

DCF 法に劣るが、計算方法が^[12]_____であること

が最たる長所である。そのため、経理担当者だけではなく、企業の現場に^[13]_____の重要性を浸透させるための一助として

も、回収期間法が役立っている。

8 管理会計論 / 管理会計

回収期間法の計算方法は2種類

- 年当たりの純キャッシュ・フローの^[14] _____ 額を計算する方法
- ^[15] _____ を計算する方法

いずれの方法による場合であっても、計算された年数が、予め企業内で定めた^[16] _____ 以下であれば当該投資案件を採択し、それを超えていれば棄却する。

回収期間に端数が出た場合は^[17] _____。

12.3 評価方法の共通の欠点

投資評価方法における数値は、いずれも^[18] _____ されたものである。その数値の^[19] _____ を参考にして最終的決定が下される。

実務上、これらの数値の中で最も予測が難しいものは^[20] _____ である。

12.4 例題 3: 内部利益率法 (IRR) →教科書を参照

12.5 例題 4: 回収期間法 (PP) →教科書を参照

12.6 例題 4 の追加問題 →教科書を参照

12.7 例題 5: 総合問題 →教科書を参照

第13講 経営情報システムと会計

13.1 コンピュータの略史 →教科書を参照

13.2 経営情報システム (9種類)

[1] _____、[2] _____、[3] _____、
 [4] _____、[5] _____、[6] _____、
 [7] _____、[8] _____、[9] _____

- ERPは、^[10] _____された業務処理システムのパッケージ製品。ドイツの^[11] _____社や米国の^[12] _____社の製品が有名。

管理会計だけではなく、財務会計の面でも情報システムの重要性が以前より増している。

- ERPに代表される、高価な導入費用を要する情報システムの出現
- ^[13] _____ 監査(いわゆる^[14] _____)の制度化
- ^[15] _____による公表財務諸表の提出要請

13.3 製造現場における情報化

工場の自動化(^[16] _____)、コンピュータ統合生産(^[17] _____)、
 コンピュータ支援設計(^[18] _____)、コンピュータ支援生産(^[19] _____)、
 数値制御(^[20] _____)、コンピュータ数値制御(^[21] _____)

13.4 情報化の新しい潮流: AIとRPA →教科書を参照

13.5 情報システム投資における効果

投資を実施したことによって得られる成果のことを、

^[22] _____ (または^[23] _____)という。

効果には、^[24] _____できるものとできないものがある。

- 前者の代表的なものは^[25] _____である。

- 後者のことを^[26]_____という。

設備投資における主な効果は^[27]_____であるのに対して、情報システム投資における効果は、^[28]_____効果と^[29]_____効果(^[30]_____効果)に大別される。

13.6 情報システムの投資効果の測定

情報システムの投資効果の測定は、設備投資に比べて^[31]_____。

1. 投資額の測定: 情報システムの分散化や分権化に伴い、^[32]_____情報システム・コストの存在が指摘されている。
2. 省力化効果の測定: 従業員が^[33]_____のように働いている場合、特定の情報システムに係る労働時間の減少分を測定するのは難しい。
3. 戦略的効果の測定: 貨幣価値換算が難しい^[34]_____が多い。例えば、^[35]_____の達成。また、他の要因との^[36]_____な効果であることが多い。
4. 法律や規制への対応のための投資の評価:
例として、決算の^[37]_____、内部統制監査、公表財務諸表のXBRL化が挙げられる。
^[38]_____や^[39]_____との関係により、情報システムを導入しなければならない場合も、評価は難しい。
^[40]_____や^[41]_____との合致度などの定性的な尺度で評価するが多い。

13.7 管理会計のまとめ

財務会計は、主として^[42]_____や^[43]_____に基づくものである。それに対して管理会計は、^[44]_____で利用するものであるから、それらにとらわれることなしに実施することができる。

それゆえ、^[45]_____に^[46]_____した管理会計システムが求められるのである。

また、実務上、管理会計を経営に役立つように使いこなすことは非常に^[47]_____。その理由を以下に挙げる。

- 一部の大企業を除き、管理会計に詳しい^[48]_____が社内にはいない。
- 経営者は、管理会計の^[49]_____を理解しているとは限らない。
- 企業によって、最適な管理会計システムは^[50]_____。
- 企業環境は日々^[51]_____しているため、管理会計が社内でも有用性を保つためには、管理会計の仕組みも変化する必要がある。

このような困難さが故に、管理会計は「^[52]_____」「^[53]_____」などと揶揄されることがある。しかし、管理会計の有用性を理解し、適切に実践している企業によって新たな手法が日々生まれていることを考えれば、管理会計の前途は明るいといえよう。

空欄部分の解答

第9講

[1]特殊原価 [2]特殊原価調査 [3]経済計算 [4]未来 [5]差額 [6]限界 [7]回避可能 [8]回避不能 [9]延期可能 [10]延期不能 [11]関連 [12]無関連 [13]埋没 [14]機会 [15]予測値 [16]特定 [17]不変

第10講

[1]現金支出 [2]最大 [3]逸失利益 [4]特殊 [5]意思決定 [6]対応 [7]差額

第11講

[1]減少 [2]金利 [3]時間価値 [4]純キャッシュ・フロー [5]年利率 [6]割引 [7]割引率 [8]割引キャッシュ・フロー法 [9]DCF [10]正味現在価値法 [11]NPV [12]内部利益率法 [13]IRR [14]加重平均資本コスト率 [15]WACC [16]各年度 [17]複利計算 [18]設備投資 [19]正味現在価値 [20]正 [21]負 [22]零 [23]期首 [24]設備投資 [25]期末

第12講

[1]元金 [2]元利 [3]年利率 [4]零 [5]目標利率 [6]WACC [7]変化 [8]複数 [9]多く [10]時間価値 [11]回収後 [12]単純明快 [13]投資効率 [14]平均 [15]累積キャッシュ・フロー [16]目標回収年数 [17]切り上げる [18]予測 [19]分析結果 [20]売上・収益

第13講

[1]EDP [2]MIS [3]AIS [4]DSS [5]ES [6]SIS [7]MRP I [8]MRP II [9]ERP [10]統合化 [11]SAP [12]オラクル [13]内部統制 [14]J-SOX [15]XBRL [16]FA [17]CIM [18]CAD [19]CAM [20]NC [21]CNC [22]効果 [23]便益 [24]定量化 [25]財務的效果 [26]無形便益 [27]売上 [28]省力化 [29]戦略的 [30]追加的 [31]難しい [32]隠れた [33]多能工 [34]無形便益 [35]経営目標 [36]複合的 [37]早期化 [38]競合他社 [39]取引先 [40]到達度 [41]経営戦略 [42]法律 [43]規制 [44]社内 [45]目的 [46]適合 [47]難しい [48]人材 [49]有用性 [50]異なる [51]変化 [52]捏造 [53]裏帳簿